

ガイド事業5年間を振り返って

松本 孝

高知県立牧野植物園教育普及推進課

はじめに

高知県立牧野植物園は、日本国内の植物の分類学に多大なる貢献をし、世界にも知られる牧野富太郎博士を記念して1958年に開園した。その後1999年に新たに着任された小山鐵夫園長の手により、長らく植物資源の開発に主眼を置いた運営が行われていたが、2014年より水上元博士が園長に就任された後は、牧野植物園がもつ魅力をより広く知ってもらうために、教育普及活動についても新しい取り組みが行われた。その中で「牧野植物園の磨き上げ整備基本構想」が策定され、この一環として「園内ガイドの充実」が位置付けられ、2017度より筆者を含む2名が配置されることとなった。これまで牧野植物園ではガイド業務の内容や手法が明確に策定されていなかったため、予備的な業務を2017年度内に実施し準備を整えたうえで、2018年度以降に本格的なガイドの運用を行うこととなった。ここでは、2017年から2021年度にかけて行われた園内ガイド業務の整備と充実に関して報告する。

1. 5年間の主なガイド業務

(1) 職員が園内を案内する春と秋のガーデンツアー

ガイド事業の大きな柱のひとつとして栽培技術課や植物研究課、教育普及課など各課の職員が園内を案内するツアーを春と秋に実施することになり、まず2017年度にその前身となる「秋のガイドウィーク」において私は企画補助および園地ガイド担当を行い、各課職員と連携した企画運営やツアー業務全体の流れを経験した。

この経験をふまえて翌2018年春のツアー（3月～5月）より、ガイドが企画運営から全ての業務を担当した。この年は開園60年の節目にあたり、春のツアーでは全体のテーマとして、積み重ねてきた60年の歴史、植物や植物園の魅力を知った職員の園内解説は園の財産であることを前面に打ち出した。また名称は植物園を巡る意図がより感じられるよう「ガーデンツアー」とした。

2018年の秋のガーデンツアーでは、初来園やツアー初

参加の方に限定したものや、開催予定の企画展（標本展）の内容をいち早く紹介するプレツアー、牧野博士に扮したガイドと同じく博士に仮装した子ども達を対象にしたツアーなど、幅広い世代の方に楽しんでいただけるよう内容を工夫しながら運営した。ツアー実施後はアンケートをとり、参加者よりいただいた意見で可能なことは次に反映するようにしている。

牧野植物園の磨き上げ整備の一環として、2019年には新園地（こんこん山広場・ふむふむ広場）が整備・公開され、同年の「春のガーデンツアー」において、当園の新たな魅力として積極的にツアー内容に盛り込んだ。「秋のガーデンツアー」では「植物に触れて香る体験」のツアーや、野点^のや展示館シアターにおけるイベントと連携したツアーを行った。また、このとき初めての取り組みとして手話通訳者と巡るツアーを期間中の前半と後半に設け、聴覚障がい者の方より「わかることは楽しい、続けてほしい」と好評をいただき、この取り組みはその後も継続している。

2020年の「春のガーデンツアー」は新型コロナウイルス感染拡大で中止となった。同年の「秋のガーデンツアー」では、密にならないよう人と人との間隔をあげ、実施回数と参加人数を制限、解説時間の短縮、参加時には参加申込書に氏名・連絡先・人数の記入のお願いなど感染症対策をとった。このツアーより解説者と参加者が離れていても解説音声聞こえるワイヤレスマイクガイドシステムを導入した（図1）。このシステムは、密



図1. 2020年秋のガーデンツアー（写真は手話通訳者とめぐるツアー）。

を避けながら解説側は普通に話せ、聞く側は聞きやすいというメリットがあり、「解説内容がよく聞こえる」と参加者より好評を得ている。そのため、今後のガーデンツアー含めガイド業務全般を原則としてこのスタイルで行うこととした。さらに、外国の方に当園の魅力を知っていただけるよう英語通訳者と巡る内容を設けた。当日は外国の方の参加はなく日本人のみで行ったが、英語通訳者と今後の連携を図れる礎となり、手話通訳者のほか英語通訳者とツアーを組める体制が構築できた（後に2020年の秋は県内にお住いの外国の方はほとんど外出していないことを知り、参加がなかったのにはそのような背景があった）。

2021年の「春のガーデンツアー」では引き続き感染症対策を継続した。前年度の秋に実施便数や参加人数、解説時間とも「少ない、短い」など参加者からの意見があったことを受け、密にならないことを基本に便数や人数を多くし時間を長くして開催した。英語通訳者と巡るツアーでは小学生～18歳未満を対象にして、「英語で植物園を巡ろう」と題して実施したところ実際に英語を学習中の児童たちの参加があり、英語を通して植物と当園の魅力に接してもらえらるいい機会となった。2021年度の秋のガーデンツアーでは「園内の「キク」巡り」「牧野富太郎生誕160年プレ解説」「秋の植物園の楽しみ方」「広い場所で楽しもう」の4つを大きなツアーテーマに設定し、各課の職員それぞれが専門性と個性を活かした内容で実施した。「通訳者と巡るツアー」では五台山竹林寺を巡る内容とし、五台山の歴史や植物園と竹林寺とのつながりに接する機会とした。

(2) まきの・ガイドポケット

2017年度までは、教育普及課が園内エリア毎の見ごろの植物を毎週提示し、職員（特に窓口・事務室・広報・ガイド）が「いつ、どこで、何が見られるか」や「この植物はいつごろ見られるか、今咲いているか」といった来園者の質問への対応ができるようにしていた。一方、来園者が自力で開花場所にたどり着くのが難しいことや、紹介している植物の種数が少ないことが課題であった。そこで、2018年度からの園内ガイドの本格運用に向け、2017年12月より毎週日曜日に園内の見ごろの植物や施設案内を行う定点ガイド活動を開始した。名称は、ポケットに入るようなコンパクトな情報発信の場所への思いを込め「まきの・ガイドポケット（以下、ガイドポケッ

トと称す）」とした。その後、本館五台山ロビーに常設のインフォメーションを設置しガイド拠点を整え継続している（図2）。



図2. まきの・ガイドポケット。

そのガイドポケットでは、A2サイズの植物園の白地図面に、開花中の見ごろの植物の種名とその場所を落とし込んだ「見ごろの植物位置図」を常時来園者に提示しご案内している。

当初、これに掲載する写真は花が最も見ごろの状態のものを職員が撮影し活用していた。しかし、2018年5月初旬にまだ咲きかけの状態のヒスイカズラを案内した際、来園者の方から「写真のようにきれいで沢山の花が見られると思って温室に行ったら違っていた」とのご意見をいただいたことがあった。このことを教訓に、現在では毎週の見ごろ調査の際に撮った写真を用いて、リアルタイムに近い形で園内の植物の開花状況を来園者にお伝えしている。2019年10月より本館窓口前に大型の案内板（折り畳み式マップ）を、12月には本館内にガイドの拠点となるインフォメーションを設置し、2020年1月より毎週土日のみガイド常駐を開始するなど活動の充実を図った。

2020年、新型コロナウイルス感染拡大の影響により海外はもちろん県内外からの団体来園のキャンセルが相次ぐ中、個人や小グループに対し、土日以外の平日も可能な限りインフォメーションにおける案内を実施するなど、社会情勢の変化に応じ団体対応から個人対応も含めた形へシフトしながら対応した。

またインフォメーションで見ごろの植物位置図をご覧になられた来園者より「これは配布していないのか」「こういうのがほしい」という意見を度々いただくことがあり、そのニーズに応え、個人や団体来園者への案内を充実する取り組みを行った。2020年6月に見ごろの植物

位置図をより見やすくするためレイアウト変更を行い、それに合わせ一般配布用に「見ごろの植物マップ」を、毎週土曜日に製作・印刷し、以後、毎週継続している。園内植物の季節の見ごろを紹介する流れとして、毎週木曜日に園内巡回、金曜日に窓口前の「見ごろの植物位置図」の更新（ホームページも金曜日に更新）、土曜日に一般配布用見ごろの植物マップ発行の更新を行い、土日のガイドポケットでご案内するという形がこの5年間で完成できた。この一連の流れはガイド事業の基盤となる業務である。

(3) 来園団体への解説

当園では、団体客に対するガイド業務は古くから行っており、植物園の魅力（見ごろの植物、牧野博士の業績、植物園の変遷、展示や研究の内容、暮らしと植物のつながり、景観、五台山の歴史や建造物等）をより深く理解し感じていただくために、来園者の意向を汲み取って解説を行っている。2019年度は、この5年間で団体受入が最も多く、前年度の倍となる197件の対応実績を残した。この要因として考えられるのは、この年にこんこん山広場など新園地がオープンしたことや、展示館のリニューアル、広報職員の営業活動による旅行商品の造成があげられる。国内外の大型客船寄港により来園された団体もあり、なかでも4月は最も多く、3日間で400人を超えることもあった。

しかし一転して、2020年では新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、来園や解説申込のキャンセルが相次ぐこととなった。8月・9月は月に1～2件の解説を実施し、来園者の間隔が密にならないよう感染症対策を取り、毎週発行している見ごろの植物マップを活用して1グループ20人以内で広い場所へ案内し、約10分のガイドを行った。また、従来は大学教員が講義の一環として学生を引率して来園されることもあったが、この年は教員のみが来園のうえで解説員による案内のようすを撮影した動画を用いてオンライン講義を実施した。現在では団体受入を表1に示した方針の下で実施している（2021年10月現在）。

表1. 受入一覧

観光ツアーや会社の研修、地域で活動されている団体、植物や自然、歴史などに関心をお持ちの方々のグループを対象に、見ごろの植物や見どころなど、要望に応じて案内。5人から受け付けており、20人までを1グループで対応。

解説の受入	解説の方法	5～20人	21人以上
1 来園時に5～10分程度の解説。その後は、自由行動。	広い場所へ移動して来園者同士が間隔を取り解説（腰付けマイク）。	○	○
2 来園後、同行し園内解説。解説時間は最大60分を基本。	互いに間隔を取り、機器を各自付け園内解説。屋内では見ながら歩くなどして解説を簡潔に行う。（ワイヤレスガイドシステム）	○	○

・来園者は窓口で必ず検温を行ってから入園。

・ガイドはマスク、フェイスシールドの着用。

2. 見ごろの植物ガイドウォーク

2021年5月16日（日）より、「見ごろの植物ガイドウォーク」と題し、個人来園者向けにも園内ガイドを実施する新たな取り組みをスタートした。毎週土曜日発行の「見ごろの植物マップ」を手に、その時期にぜひご覧いただきたい見ごろの植物を主に案内する内容とし、毎月第3日曜日の午前10:30から1回、所要時間は30分ほどのコンパクトさを心掛け気軽に参加いただけるスタイルとした。これまでは団体向けがメインで、それ以外は春・秋のガーデンツアー、五台山観月会関連などイベント的な内容に過ぎなかったが、本ツアーのスタートにより当日参加型の個人向けガイドを定期開催することとなった。

初回（5/16）、3回目（7/18）は参加された半数が初来園の方々で、園の特徴や牧野博士について、本館・展示館の概要なども状況をみながら組み入れて行き、「ガイドさんのユーモアある話が楽しかった」との感想をいただいた。4回目（8/15）では企画展「つなげ、高知の少ない生き物たち」で配布していたマップ「絶滅のおそれのある植物マップ」活用したガイドを行った。

3. 五台山竹林寺と連携したガイド

2018年度には、五台山竹林寺と共催し「開園60周年記念 子どもサマーミーティング 五台山で遊ぼう」と題したイベントを行った。園内では寺に関連する植物として蓮や無患子^{むくろじ}を使い、蓮では葉が水をはじく様子を観察し、無患子では果皮を水に入れてかき混ぜて泡を作る体験をした。竹林寺では御住職の講話と坐禅の体験を行った。

また、恒例の「五台山観月会」のコンテンツのひとつ

として植物園と竹林寺を巡る夜間特別ツアーを企画した。竹林寺と植物園双方の歴史に触れながら五台山ならではのお月見を来園者を楽しんでいただく内容が好評で、毎回満員御礼となっている。ツアー参加でない方も周遊できるよう関連マップを配布し、五台山の魅力に広く触れていただけるようにしつらえた。

表2に、五台山観月会「夜間特別ツアー」における観察ポイントを示した。植物園の温室前からスタートし、園内の歴史的建造物や遺構の解説を行った後に竹林寺に移動し境内にてお月見を楽しみ、帰路では古よりの灯り「石燈籠」に注目し「献燈」に思いを馳せるコースとなっている。

また、ガイドポケットでは五台山ロビーの模型を使って竹林寺の歴史、植物園と竹林寺とのつながりなど五台山の魅力の再発見となるような解説を行っており、ひとつの山に寺と植物園が隣同士にあるここにしかない組み合わせにも着目して話している。その他、団体来園者の方々に対しても、植物園と竹林寺とのつながりの説明をしている。

このほか春秋のガーデンツアーでも植物園と竹林寺を巡るツアーを行い、例年11月末に催される「竹林寺秋まつり」にあわせて特別ガイドツアーを行っており、竹林寺とは今後も双方の魅力の発信はもちろん、五台山全体を盛り上げるための共催活動を継続していく。

表2. 五台山観月会 観察ポイント。

	場所	タイトル	主な解説内容
1	温室前	五台山で、さあお月見	お月見飾り拝見。古よりの風情ある月へと誘う。
2	石灯籠	植物園はお寺の脇坊	古い絵図を提示して説明。今いる場所を絵図で示す。
3	お馬路	植物園に遍路道	竹林寺へ続く参詣道。お馬さんの話。
4	山門	お寺を参る	仁王門や鐘楼堂。鐘をつくこと、心静かに参ることなどの話。
5	山門より入る	東向き	古い絵図を提示して説明。かつての本堂の場所、寺に神社など説明。
6	五重塔	シンボル	古い絵図を提示して説明。元々は三重塔。塔を眺める。
7	本堂前	五台山でお月見	古い絵図を提示して説明。文殊菩薩様をお祀りするお堂などの説明。

4. ボランティアとの協働

当園では過去2013年1月、2015年1月にボランティアでガイドをしてくださる方を募集していた。その後、ガイドポケットの新設によってガイドボランティアの活動の場がさらに広がることとなり、さらなる拡大と活動内容の充実を含めた職員との協働について2019年に意見交換を行い、ガイドポケットを拠点とした活動について準備を進めてきた。しかし2019年度以降、新型コロナウイルス感染拡大により感染リスクの高いガイドボランティアの活動はストップせざるを得なくなったが、2021年には感染対策を実施したうえで、対面リスクの少ない新たな活動として、また、より園内の植物を知っていただくことを目的として、園地巡回で記録した植物写真の整理活動を行った。